

千葉市政担当記者 様

平成26年9月3日
保健福祉局健康部
健康企画課
電話 245-5202
内線 2773

市内でのデング熱患者の発生及び専用相談窓口の設置について

市内において海外渡航歴のないデング熱患者の発生がありましたので、市民等に対し感染予防及び注意喚起の観点から、お知らせします。

また、市保健所内にデング熱専用の電話相談窓口を設置しましたので、併せてお知らせします。

1 概要

平成26年9月2日（火）、市内医療機関からデング熱患者の届出があり調査したところ、最近一か月以内の海外渡航歴はないことから、国内感染症例であることが確認されました。

また、8月に都立代々木公園内で土木作業をしていることが判明しており、同公園でデングウイルスを保有している蚊に刺されて感染した可能性が疑われます。

2 患者について

- (1) 年齢等 : 若葉区在住、男性、70歳代
- (2) 海外渡航歴 : 最近一か月以内はなし
- (3) 発症年月日 : 平成26年8月24日（日）
- (4) 主な症状 : 発熱、頭痛、筋肉痛、骨関節痛、発疹
入院はしておらず、現在は快方に向かっている。
- (5) 受診年月日 : 平成26年9月2日（火） 市内医療機関受診
- (6) 蚊の刺咬歴 : 不明

3 市の対応について

- (1) 相談窓口の設置
 - ア 本日午後1時千葉市保健所内に、デング熱専用相談窓口を設置
 - イ 市ホームページでの情報提供
- (2) 関係者調査
患者と共に作業をしていた関係者等について調査を継続中

デング熱専用相談窓口電話番号	043-238-9969
対応時間	平日午前8:30～17:45（土・日、祝・休日を除く）

市民の皆さまへ

デング熱は、ヒトからヒトではなく、デングウイルスを保有した蚊を媒介して感染し、症状が出たとしても重症化することは少ないといわれていますので、市民の皆様は冷静な対応をお願いします。

また、感染源とされている場所を訪れた際に蚊に刺されて発熱、発疹等の症状がある場合は、かかりつけの医療機関を受診してください。

【デング熱について】

1 概要

- ・蚊が媒介するデングウイルスによる疾患で、アジア、中南米、アフリカ等の世界の広範な地域で流行しています。
- ・ヒトが感染しても、発症する頻度は10%～50%で、発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹等の症状が現れます。
- ・予後は比較的良好ですが、まれに重症化することもあります。
- ・ヒト（患者）— 蚊 — ヒトという経路で蚊を媒介して感染します。ヒトからヒトへ直接感染することはありません。

2 症状

- ・突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛などが見られます。
- ・潜伏期間^{*}は2～15日とされていますが多くは3～7日で発症します。
- ・まれに重症化して、出血やショック症状がみられることがあります。

※蚊に刺されてから症状が出るまでの期間

3 治療法

- ・特異的な治療法はなく、対症療法を行うこととなります。
- ・現在のところ、有効な抗ウイルス薬はありません。

4 予防法

- ・国内では、ヒトスジシマカ（主に日中に屋外で吸血する）がデング熱を媒介する可能性があるため、蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要です。

[具体例]

- ①屋外で作業する際は、長袖、長ズボンを着用し、素足でのサンダル履きを避ける
- ②虫除け剤等を使用し、蚊を寄せ付けないようにする
- ③屋外だけでなく屋内でも蚊の駆除を心がける
- ④蚊の幼虫の発生源を作らないようにする

（蚊は、下水溝や廃タイヤの中等の人工的な水辺環境下でも産卵し、増殖する）